

『ETS 道内初導入』の記事

**オートクレーブの滅菌状況を評価するETSを導入
安全・確実な作業環境を構築**

函館中央病院

函館中央病院（函館市）の中央材料室では、オートクレーブ（高圧蒸気滅菌器）の滅菌状況の評価を行うETS（電子式テストシステム）を道内で初導入し、より安全・確実な滅菌環境と業務の質向上を図った。

オートクレーブは密閉した機器内を高温高圧の蒸気で加圧することで細菌を死滅させる装置だが、機器内に空気が残留している場合、滅菌不良の要因となる。ET



道内初導入のETS。センサーが内蔵されている



岡部第一種滅菌技師

Sはオートクレーブとは独立した測定システムで、滅菌物と共にオートクレーブ内に留置することでセンサーが残留空気や温度、圧力、時間等を検出し、コンピュータ上にグラフ化することで滅菌状況を判定することができる。

「ISOでは134度3分間の滅菌工程を規定していますが、滅菌物が実際に規定の温度と時間に達したかを判定するのは難しいため、滅菌時間を4分程延ばすことで滅菌の確実化を図ってきたのが現状です。また、通常は生物学的インジケータと呼ばれる菌の入ったカプセルをオートクレーブに入れたら、作業動作の判定を行うのですが、インジケータは色で判定するのに対し、ETSはデータで測定できるので当然確実性は高まります。滅菌器が故障する前に不具合を発見できる点も作業環境の改善に役立っています」と岡部第一種滅菌技師は話している。